



防災の知恵 ～家族で、地域で、事前に備える～



ハザードマップ

- 自然災害が予測される区域や避難場所、避難経路、防災関係機関の位置など、住民が自主的に避難するために必要な情報をわかりやすく地図上に示したものです。
- 災害ごとに作成されていますので家族や地域で災害時の対応を話し合しましょう。



家族防災会議をしよう

- ふだんから家族で災害時の連絡方法、避難場所を決めておき、家族で実際に行ってみるなど一緒に体験しておきましょう。
- 津波の危険があるときには、一人ひとりが逃げることを事前に話あい、家族の帰宅や連絡を待って逃げ遅れないようにすることも重要です。



地域の活動に参加しよう

- 災害時には、地域の方々との助け合いも欠かせません。
- 日頃から地域の防災訓練や研修会への参加に加え、地域の活動にも積極的に参加し、顔の見える関係づくりをしましょう。

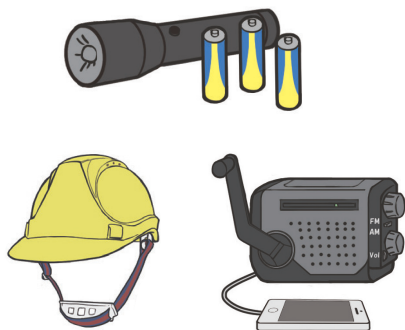


災害時における帰宅困難者への支援



- 地震などの災害により道路交通網や公共交通機関などが途絶した場合に、帰宅が困難となった通勤者、通学者、観光客などに対して、帰宅途中の店舗において、可能な範囲での協力をいただけるよう民間企業との協定を締結しています。協力店舗には「災害時帰宅支援ステーション」ステッカーが掲示されています。

非常時の持出品などを備える



- 避難時に持ち出す「非常持出品」、災害後の自宅や避難所の生活を支える「非常備蓄品」、外出先での被災に備えた「常時携行品」「車載常備品」などを準備しておきましょう。